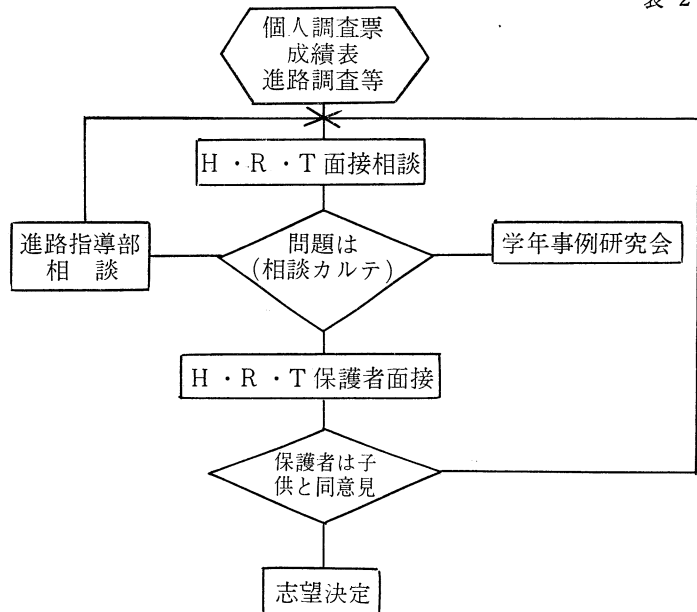


ロングホームルーム進路指導年間計画表

表 1

	1 年	2 年	3 年
目 標	高校生活への適応を図り、将来の進路について自己理解させる。	高校生活の充実を図り、適切な進路の選択のため、具体的な目標を追求する意欲をもたせる。	社会的自己実現のため、適切な進路の決定を指導し、目標達成のための意欲と将来の生活への適応を図る。
4 月	高校生活の目標と意義 (進路調査 進路カード記入)	進学か就職か (進路調査 進路カード記入)	進路の決定 (進路調査 進路カード記入)
5 月	将来の希望とその実現	進路と学習計画	面接試験
6 月	自己理解について	女性と職業	希望進路と自己実現
7 月	個性と進路	上級学校の理解	進路情報の生かし方 (合同ホームルーム)
8 月	私の夏休み (読書と思索)	私の夏休み (視野と経験の拡大)	私の夏休み (生き方の検討と確認)
9 月	家庭環境と進路	先輩の進路を調べ、自分の進路について考える。	進路準備 (受験手続と方法)
10 月	職業と労働について	職業の種類と特色	進路準備と試験
11 月	進路情報 (1)	進路選択の心がまえ	職場や学校生活への適応
12 月	〃 (2)	進路相談	志望内定後の心がまえ
1 月	進路相談	個性と進路	社会人になるための条件
23 月	進路設計	進路計画の再検討	未来へ向けての出発

表 2



ムルームが同一歩調で面接するように心がけた。特殊な問題を持つ生徒については、事例研究会を開くと同時に、相談カルテを作成し進路指導部に依頼した。なお、九月にも補充面接相談月間を設定、実施した。

進路指導部による面接相談
各ホームルーム担任から依頼のあった生徒については、相談カルテによって相談を実施したほか、生徒の自発的来談にその都度応じ助言した。

事例研究会は、各学年ごとに、ホー

ムルーム担任と進路指導部の係が参加して、生徒の個々の問題について検討し、それぞれのケースに対する指導について共通理解を図り、教師の研修を深めた。

これらの実践を通して、学力不足をどうしたらよいかと悩んでいる生徒が多く、努力もしないで半ばあきらめている者もあり、就職はするが生活設計がない者もいて、真剣に取り組む姿勢が乏しい。

進学は各種学校や専門学校への希望

が多いが、その内容についての理解が十分でない。父兄は本人や学校任せが多く、進学についての認識は低いことなどが分かった。このことから、進路指導のより一層の充実を図り、自己理解を深め、生活に目的と張り合いを持たせることの重要性を再確認した。

(三) 家庭に対する働きかけ
生徒の進路については、親が大きな影響を与えているが、その親の八〇％は、教師に、子供のよき相談相手とな

五 今後の課題
この研究は生徒の自己実現を援助し

ってほしいと要望している。このことから、①進路だよりの発行②進路意識アンケート③進路相談・三者面談④方部懇談を実施して、家庭に情報を提供し、保護者の要望を聴きながら、相互の連携を密にし指導の充実を図った。特に、生徒・保護者・担任の三者面談は、相互理解を促し、より深みのある相談ができて有意義であった。